医学研究所北野病院　麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムでは，地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし，研修終了後は，大阪市北区、奈良県北中部、滋賀県大津市、京都市左京区及び西京区、大阪市天王寺区、沖縄県、和歌山県、大阪府岸和田市、京都市伏見区、兵庫県豊岡市、兵庫県神戸市の地域医療の担い手として希望する施設で就業が可能となる．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半２年間もしくは３年間、または研修の後半２年間は，公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院（以下北野病院）で研修を行う．
- 北野病院は日本集中治療医学会の専門医研修認定施設でもあるので、北野病院での研修中に連続3ヶ月間の集中治療部ローテーションを行い、集中治療医学を研修する。
- 北野病院での研修中、ペインクリニックの研修の為、６ヶ月間週３回京都大学医学部附属病院のペインクリニック外来での研修を行うことが原則として可能である。
- 北野病院は地域医療支援病院であり、北野病院での研修そのものが大阪市の地域医療の維持に貢献している。さらに、他の地域医療の維持のため，前半２年または３年間北野病院で研修を行った専攻医は３または４年目に地域医療の中核的病院である天理よろづ相談所病院、京都桂病院、大津赤十字病院、大阪赤十字病院、京都大学医学部附属病院、琉球大学病院、日本赤十字社和歌山医療センター、市立岸和田市民病院、医仁会武田総合病院、公立豊岡病院組合立豊岡病院、神戸市立医療センター中央市民病院、静岡医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター、自治医科大学附属病院、または大阪医療センターで、後半２年間北野病院で研修を行う専攻医は前半２年間、地域医療の中核的病院である天理よろづ相談所病院、京都桂病院、大阪赤十字病院、京都

大学医学部附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、市立岸和田市民病院、医仁会武田総合病院、公立豊岡病院組合立豊岡病院、神戸市立医療センター中央市民病院、静岡医療センターまたは兵庫県立尼崎総合医療センターで研修を行う.

- 前半３年間北野病院で研修を行う専攻医のうち、希望する専攻医は３ヶ月間、国立循環器病研究センターでの心臓血管外科麻酔の研修を行うことが原則として可能である。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.
- 北野病院研修中は毎朝の術前カンファレンスのほかに週２回の文献抄読会、ミニレクチャーで、麻酔科領域の専門知識の習得をはかる。また、金曜日のミニレクチャーのうち、1-2ヶ月に1回を症例検討会とし、問題のあった症例、興味深い症例、学会報告する症例などを専攻医、指導医だけでなく麻酔科全員で検討する。
- 日本麻酔科学会の学術集会、支部学術集会には参加を必須とする。これらの学術集会で行われる医療安全、倫理、感染対策等の共通講義の受講も必須とする。麻酔科学会の定める麻酔科領域の講習は既定どおり、必要単位以上を受講させる。
- 日本麻酔科学会関西支部の行う症例検討会、京都大学関連病院で行う侵襲反応制御医学研究会の症例検討会の参加を必須とし、出来る限りそこでの発表の機会をもうけ、他施設との間での症例検討の機会とする。後者はプログラム全体での症例検討会を兼ねる。
- 北野病院ではMillerを始めとする主要な麻酔科学のテキストは最新版をそろえているだけでなく、電子的なアクセスも可能にしている。また、Up to Date、Anesthesiologyを始めとする麻酔科の主要なジャーナル、Critical Care Medicineを始めとする集中治療医学の主要なジャーナル、Pain Medを始めとするペインクリニック医学の主要なジャーナルは全て電子ジャーナルとして専攻医は院内から無料で閲覧可能であり、自己学習の環境は整えられている。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	北野病院（1-3ヶ月集中治療）	北野病院	北野病院（6ヶ月週3回京都大学病院でペインまたは3ヶ月国立循環器病研究センターで心臓麻酔が希望に応じて原則可能）	天理よろづ相談所病院又は大津赤十字病院又は京都桂病院又は大阪赤十字病院又は京都大学医学部附属病院又は琉球大学病院又は日本赤十字社和歌山医療センター又は市立岸和田市民病院又は医仁会武田総合病院又は公立豊岡病院組合立豊岡病院又は神戸医療センター中央市民病院又は

				静岡医療センター又は兵庫県立尼崎総合医療センター又は自治医科大学附属病院又は大阪医療センター
B	北野病院（1-3ヶ月集中治療）	北野病院	天理よろづ相談所病院又は大津赤十字病院又は京都桂病院又は大阪赤十字病院又は京都大学医学部附属病院又は琉球大学病院又は日本赤十字社和歌山医療センター又は市立岸和田市民病医院又は医仁会武田総合病院又は公立豊岡病院組合立豊岡病院又は神戸医療センター中央市民病院又は静岡医療センター又は兵庫県立尼崎総合医療センター又は自治医科大学附属病院又は大阪医療センター	北野病院
C	天理よろづ相談所病院又は大津赤十字病院又は京都桂病院又は大阪赤十字病院又は京都大学医学部附属病院又は日本赤十字社和歌山医療センター又は医仁会武田総合病院又は市立岸和田市民病院又は公立豊岡病院	天理よろづ相談所病院又は大津赤十字病院又は京都桂病院又は大阪赤十字病院又は京都大学医学部附属病院又は日本赤十字社和歌山医療センター又は医仁会武田総合病院又は市立岸和田市民病院又は公立豊岡病院又は神戸医療センター中央市民病院又	北野病院（1-3ヶ月集中治療）	北野病院（6ヶ月週3回京都大学病院でペインが希望に応じて原則可能）

	又は神戸医療センター中央市民病院又は静岡医療センター又は兵庫県立尼崎総合医療センター	は静岡医療センター又は兵庫県立尼崎総合医療センター		

週間予定表

北野病院の例

	月	火	水	木	金	土
朝	術前カンファレンス	術前カンファレンス	術前カンファレンス、抄読会	術前カンファレンス	術前カンファレンス、ミニレクチャー	休み
午前	手術室	手術室	手術室	当直明け休み	手術室	休み
午後	手術室	手術室	手術室	当直明け休み	手術室	休み
当直			当直			

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

１．公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院

研修プログラム統括責任者：加藤　茂久

専門研修指導医：加藤　茂久（麻酔）
足立　健彦（麻酔、集中治療）
宮崎　嘉也（麻酔、集中治療）
黒嵜　明子（麻酔、小児麻酔）
原　朋子（麻酔）
前川　俊(麻酔、心臓血管麻酔、集中治療)
柚木　圭子（麻酔）
直井　紀子（麻酔）
村田　裕（麻酔）

専門医：　中辻　史織（麻酔）

辻　和也(麻酔)

認定病院番号　65

特徴：地域医療支援病院。大阪市北区で中心的な役割を果たす病院である。麻酔科管理で年間約３９００件の非常に多彩な手術を行っており、心臓血管外科、小児外科を含むほぼ全ての領域の手術麻酔を１１名の専門医の下で余裕を持って研修することができる。２０２３年に手術室が４室増え、西日本トップクラスの床面積を誇るハイブリッド手術室、心臓外科専用手術室、ならびに眼科/局麻専用手術室２室が稼働した。

また専攻医の学会発表や院外研修を科として積極的にサポートしており機会は豊富である。麻酔科が主体となって集中治療部（ＩＣＵ）を運営しており、日本集中治療医学会専門医研修認定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設でもあるので、十分な集中治療研修、心臓血管麻酔研修を行うことができる。

②　専門研修連携施設A

１．国立循環器病研究センター

研修実施責任者：前田琢磨

専門研修指導医（５名）：吉谷　健司
金澤　裕子
前田　琢磨
南　公人
下川　亮

専門医（１３名）：月永　晶人
増田　聖
森永　将裕
伊藤　芳彰
三浦　真之介
寺田　裕作
本庄　俊介
川喜田　靖明
岩佐　美
関　修平
馬渕　彰悟
林　颯吾
中野　晃輔

認定病院番号：168

センター手術室は 12 室であり、そのうち 4 室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています。2023 年度の症例数は、ほぼ前年と同程度でした。特に冬は緊急大動脈解離手術が多かった印象です。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。昨年は心臓移植も 30 症例以上ありました。麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 16 名で対応しました。休日を含めた毎日、麻酔科医 2 名が当直、オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています。2024 年はスタッフ麻酔科医 8 名とレジデント 17 名で対応していく予定です。

２．京都大学医学部附属病院

研修実施責任者：江木　盛時

専門研修指導医：江木　盛時（麻酔，集中治療）
溝田　敏幸（麻酔，集中治療）
甲斐　慎一（麻酔，集中治療）
川本　修司（麻酔，ペインクリニック）
瀬尾　英哉（麻酔，集中治療）
加藤　果林（麻酔）
木村　聡（麻酔，集中治療）
辰巳　健一郎（麻酔，集中治療）
松川　志乃（麻酔，心臓血管麻酔）
橋本　一哉（麻酔，集中治療）
武田　親宗（麻酔，集中治療）
廣津　聡子（麻酔，集中治療）
池浦　麻紀子（麻酔）
宮尾　真理子（麻酔）

専門医：　白木　敦子（麻酔）
山田　瑠美子（麻酔，心臓血管麻酔）
楠戸　絵梨子（麻酔）
三好　健太郎（麻酔）
小堀　鮎美（麻酔）
山本　菜都美（麻酔）
小原　淳平（麻酔）
南迫　一請（麻酔，集中治療）
生野　智美（麻酔）
宇田　周司（麻酔）
島田　覚生（麻酔）
水野　彰人（麻酔）
吉田　裕治（麻酔）

認定病院番号：　4

特徴：すべての外科系診療科がそろい、数多くの症例の麻酔管理を経験することができる。肝移植、肺移植、人工心臓植込み手術、経カテーテル大動脈弁留置術、覚醒下開頭術などは他院では経験することが難しい手術であり、経験豊かな指導医のもとでこれらの特殊な手術の麻酔管理を修得することができる。集中治療部研修では、重症患者の全身管理を身につけることができる。

３．琉球大学病院

研修プログラム統括責任者：垣花学

専門研修指導医：垣花　学（麻酔）
中村清哉（麻酔，ペインクリニック・緩和）
渕上竜也（麻酔，集中治療）
大城匡勝（麻酔）
照屋孝二（麻酔，集中治療）
野口信弘（麻酔）

神里興太（麻酔，集中治療）
宜野座到（麻酔）
仲嶺洋介（麻酔）
渡邉洋平（麻酔）
羽賀亜矢子（麻酔）
渡慶次さやか（麻酔）
幾世橋美由紀(麻酔)
桃原志穂(麻酔)
専門医：松尾敬介（麻酔）
新里勇人（麻酔）
島袋大地（麻酔）
新垣裕太（麻酔）

認定病院番号：94

特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。
集中治療，ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

。

４．大津赤十字病院

研修実施責任者：篠村　徹太郎

専門研修指導医：篠村　徹太郎（集中治療、麻酔、ペインクリニック）
宇賀　久敏（麻酔）
吉川　幸子（麻酔）
石井　孝広（麻酔）

専門医：　芳川　瑞紀（麻酔）
岸本　佳矢（麻酔、ペインクリニック）
岩本　奈穂子（麻酔）
藤井　庸祐　（麻酔、集中治療）

認定病院番号：　305

特徴：高度救命救急センター、周産期母子センター、地域医療支援病院、地域がん医療支援病院、を兼ねる。年間2400例ほどの麻酔管理症例のうち高度救命救急センター経由患者が5~6%を占める。NICUもあるため患者層は生後１日目から100歳超までと幅広い。外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、耳鼻咽喉科、頭頚部外科、形成外科、泌尿器科、歯科口腔外科、脳外科、産婦人科がある。外傷の緊急手術もある。通常の手術で硬膜外麻酔を含む神経ブロックを併用する率が高い。専門医の下で十分な余裕を持って研修を積むことができる。ペインクリニック専門医指定研修施設なので、神経破壊薬を用いる緩和神経ブロックも学べる。日本専門医機構認定集中治療科専門研修施設でもある。

５．大阪赤十字病院

研修プログラム統括責任者：内海　潤

専門研修指導医：　内海　潤（麻酔）
西　憲一郎（麻酔、集中治療）
岡本　明久（麻酔、集中治療）
小松崎　宗（麻酔、集中治療）

関口　貴代（麻酔）
辻井　俊二（麻酔）

認定病院番号：59

特徴：当院は大阪市内の地域医療で中核をしめる救急救命センターとして多彩な緊急症例を受け入れるとともに、ロボット支援下内視鏡手術、ハイブリッド手術などの高度医療にも対応しています。年間約 4800 件の麻酔科管理症例を通じ、新生児～小児、周産期医療、心臓大血管手術、開胸、開頭症例など学会が定める必要症例のすべてを研修することができます。週 1 回（平日）の当直では、専門医とともに緊急手術の麻酔管理を行うほか､集中治療部での患者管理も研修できますが､翌日は業務フリーで午後には帰宅可能です。さらに土日休日の当直・オンコール無しなど、研修中のワークライフバランスにも留意しています。

６．日本赤十字社和歌山医療センター

研修プログラム統括責任者：丹下 和晃

専門研修指導医：丹下 和晃（麻酔、区域麻酔）
伊良波 浩（麻酔）
山田 伸（麻酔、漢方医学）
川口吉昭（麻酔）
岩橋 静江（麻酔）
吉村 聖子（麻酔、ペインクリニック）
根来 孝明（麻酔、心臓血管外科麻酔）
片岩 真依子（麻酔、心臓血管外科麻酔、ペインクリニック）
池本 進一郎（麻酔、ペインクリニック）
佐田 蓉子（麻酔、心臓血管外科麻酔）

専門医：宮崎 里紗（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号 200

特徴：当院は和歌山県のみならず近隣府県のからも症例が集まり、麻酔科管理手術症例は年間 6000 例を超える。ペインクリニック、漢方医学、集中治療、緩和医療、心臓血管外科麻酔が研修可能である。集中治療は ICU 専属医師のもとに研修を行う。各指導医は区域麻酔、小児麻酔などの経験・技能も豊富である。ペイン、漢方、心臓麻酔はそれぞれの専門医に指導を受けることができる。当院では麻酔計画の段階である術前診察に重点を置き、安全性を高めるとともに患者との信頼関係を構築している。病院治療を行う患者を総合的に管理・支援する患者サポートセンターでの術前診察にはじまり、手術室の麻酔科医リーダー、手術部看護師のフロアリーダーのチェックを経て、看護師・薬剤師も参加する術前カンファレンスを行い、手術スタッフ内で情報の共有化を図っている。

麻酔科管理症例数　6520症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	157症例
帝王切開術の麻酔	198 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	198 症例
胸部外科手術の麻酔	305症例
脳神経外科手術の麻酔	74症例

７．医仁会武田総合病院

研修実施責任者：瀬川　一

専門研修指導医：瀬川　一（麻酔、集中治療）

矢澤 智子（麻酔)

羽原 利枝（麻酔）

中村 久美（麻酔）

認定病院番号：648

特徴：地域密着型の急性期総合病院である。ほぼすべての外科系診療科を有しているため、各科の予定および緊急手術の麻酔及び集中治療室における患者管理を学ぶことが出来る。

８．市立岸和田市民病院

研修実施責任者：谷本 圭司

専門研修指導医：谷本 圭司（麻酔、集中治療）

東 恵理子（麻酔）

黄 輝広（麻酔）

内 洋一（麻酔）

認定病院番号： 541

特徴：大阪府南部（泉州地域）の中核病院であり、この地域の急性期医療を担っています。麻酔科管理症例は年間約 2000 例あり、心臓血管外科を含むほぼ全科の手術麻酔を経験できます。外科系各科の垣根が低く、コメディカルとの関係も良好で、働きやすい環境です。

９．神戸市立医療センター中央市民病院

研修実施責任者：美馬　裕之

専門研修指導医：美馬　裕之（麻酔、集中治療）

山崎　和夫（麻酔、集中治療）

宮脇　郁子（麻酔）

東別府　直紀（麻酔、集中治療）

下薗　崇宏（麻酔、集中治療）

柚木　一馬（麻酔、集中治療）

野住　雄策（麻酔、集中治療）

認定病院番号：　217

特徴：神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。そのため心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多彩な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

10．独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター

研修プログラム統括責任者：小澤　章子

専門研修指導医：小澤 章子（麻酔、集中治療）

今津 康宏（麻酔、集中治療）

専門医:　　波里 純子（麻酔、集中治療）

認定病院番号：866

施設の特徴：当院は「循環器」,「がん医療」,「救急」及び「総合医療」を柱として地域の医療ニーズに応えている地域医療支援病院である。「地域循環器病センター」として静岡県東部の「循環器病」に関する中核病院に位置付けられており、心臓血管外科の症例も豊富で、虚血性心疾患,血管疾患,循環器疾患の診療治療を経験できる。救急医療体制も充実しており、心臓血管外科は静岡県東部全域より救急を受け入れている。

11. 兵庫県立尼崎総合医療センター

研修実施責任者：田中　具治

専門研修指導医：田中　具治（麻酔、集中治療）
進藤　一男（麻酔）
村田　洋（麻酔）
尾田　聖子（麻酔）
宮本　知苗（麻酔）
杉山　卓史（麻酔）
山長　修（麻酔、集中治療）
小川　達彦（麻酔、集中治療）
谷上　祥世（麻酔）
至田　雄介（麻酔、集中治療）

専門医：　山部　竜馬（麻酔）
野田　奈於美（麻酔）
伊藤　杏珠（麻酔）
青戸　一恵（麻酔）
花井　香穂（麻酔）

認定病院番号：　698

特徴：平成 27 年 7 月に旧・兵庫県立尼崎病院が改名・新築移転し、阪神地域の総合的な基幹病院として高度急性期・高度専門・先進医療を行っている。

救急救命センター・小児救急救命センターと総合周産期母子医療センターを有し、小児医療・周産期医療・救急医療が充実しており、小児の麻酔症例と帝王切開術の麻酔症例も豊富（令和５年度の麻酔症例数：6 歳未満の小児 540 例、帝王切開術 325 例)。臓器移植手術以外の様々な手術の麻酔管理が経験可能であり、特に先天性心疾患患者の心臓血管手術と胸部外科手術の麻酔症例が豊富であることも特徴。集中治療部門や救急救命センターでの専門研修も可能。

12. 公立豊岡病院組合立豊岡病院

研修実施責任者：正田　丈裕

専門研修指導医：正田　丈裕（麻酔）
蔭山　成（麻酔）
田井　綾乃（麻酔）
西垣　春菜（麻酔）

認定病院番号：　434

特徴:ドクターヘリで救急患者を搬送して24時間体制で受け入れ，但馬地域唯一の総合病院として，京都府北部から鳥取県の一部まで含めた医療圏をカバーしている。 外科系各科も充実しており，乳幼児

から超高齢者まで幅広い年齢層の患者の麻酔管理を経験できる。救命救急センターや周産期医療センターも併設しているため，緊急手術症例の麻酔を数多く経験できる。

③　専門研修連携施設B

１．公益財団法人 天理よろづ相談所病院

研修実施責任者：石井久成
専門研修指導医：石井久成（心臓麻酔専門医）
山口直城（麻酔、心臓麻酔専門医）

麻酔科認定病院番号：83
地域の総合病院として、多種多様な麻酔症例を経験できます。2014 年に手術室が新築され麻酔科的にとても充実した働きやすい環境が整っています。心臓血管外科手術の麻酔が多種にわたり経験できます。TEE は麻酔科医と検査技師とが相補的に詳細な所見を取ります。TAVI は、ほぼ全例 MAC で麻酔科が管理しています。ハートチームの結束も固く、互いを尊重し合いながら切磋琢磨しています。かつて当院で小児期に心臓手術を行った患者、いわゆる Adult Congenital 症例が増加しつつあります。複雑な循環動態の患者の、心臓・非心臓手術のチャレンジングな麻酔を施行しています。

２．京都桂病院

研修実施責任者：小山　智弘
専門研修指導医：小山　智弘（麻酔、心臓血管麻酔）
上田　裕介（麻酔、心臓血管麻酔）
田尻　美穂（麻酔、心臓血管麻酔）
専門医：　住谷　絵未里（麻酔、心臓血管麻酔）
認定病院番号：　975
特徴：京都市西部、乙訓地域、京都中部地域の約 70 万人の人口圏にある基幹病院であり、その地域で最大の病床数を有している．外科系のほとんど全ての診療科が揃うため様々な手術の麻酔を経験し，日々の研修で麻酔専門医に必要な知識と技術を身につけることができる．消化器外科，泌尿器科，産婦人科，呼吸器外科においてロボット支援手術が行われている．スタッフのうち１名が心臓血管麻酔領域の専門医，複数名が JB-POT 認定歴を持ち，心臓血管麻酔はマンツーマン指導体制のもとトレーニングすることができる．

３．自治医科大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：竹内　護
専門研修指導医：　竹内　護（小児麻酔，心臓麻酔）
讃井將満（集中治療）
鈴木昭広（周術期管理，モニタリング，超音波検査）
五十嵐孝（ペインクリニック，産科麻酔）
多賀直行（小児麻酔，小児集中治療）
佐藤正章（蘇生学，医学教育）
堀田訓久（ペインクリニック，区域麻酔）
末盛智彦（小児集中治療、心臓麻酔）
永野達也（小児麻酔，小児集中治療）

島田宣弘（ペインクリニック，緩和ケア）
関厚一郎（心臓麻酔、集中治療）
篠原貴子（小児麻酔）
原村陽子（小児麻酔，小児集中治療）
吉永晃一（心臓麻酔、集中治療）
須藤智幸（手術麻酔）
山本令子（手術麻酔）
佐多奈歩（集中治療）

専門医：　原鉄人（手術麻酔，集中治療），藤田裕壮（手術麻酔），
山田衣璃（手術麻酔），山田希生（手術麻酔），
中田翔（手術麻酔），小川薫（手術麻酔），
中村美織（手術麻酔），田中諒子（手術麻酔）
山田高嗣（手術麻酔），

麻酔科認定病院番号：105

特徴：当院は全国初の大学病院併設型の子ども医療センターを有し，周産期母子センター，救急救命センター，がん拠点病院といった多数の機能を有している．そのため経験できる症例は実に幅広い。当院で研修を行い同期と症例を共有することで体得される知識と技術は，教科書や文献では決して得られない貴重なものになるだろう．

４．独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター

研修プログラム統括責任者：渋谷博美

専門研修指導医：渋谷博美　（臨床麻酔）
天野栄三　（臨床麻酔）
島川宜子　（臨床麻酔）
石井裕子　（臨床麻酔）
伊藤千明　（臨床麻酔）
上田祥弘　（臨床麻酔）
中西裕貴子（臨床麻酔）
山路寛人　（心臓血管麻酔）
桐山有紀（臨床麻酔）
浜川綾子（臨床麻酔）
山形晃太（臨床麻酔）

麻酔科認定病院番号：584

特徴： 当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町4丁目」駅上にあり、 窓越しに大阪城と難波の宮が見えます。心臓血管麻酔専門医認定施設であり、低侵襲のMICSや大血管手術、mitral clipやTAVIなどの麻酔も多く経験できます。そのほか多くの診療科の手術麻酔を施行しています。ロボット支援下低侵襲手術や手術室外で施行される脳血管内手術にも対応しています。外科系診療科との連携もとれており、とても働きやすい職場です。ICU研修も行っています。敷地内保育園，病児保育や夜間保育があります。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに本研修プログラムに応募する．選考方法は面接である。

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院　麻酔科主任部長　加藤　茂久
大阪府大阪市北区扇町2-4-20
TEL （　０６　）６３１２-１２２１
E-mail　s-katou@kitano-hp.or.jp
Website http://www.kitano-hp.or.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる．心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術なども指導医のもとで経験する。

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対しては、一人で安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修３年目

通常の症例の定時手術、緊急手術を基本的に一人で安全に周術期管理を行うことができる。さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9.専門研修の評価（自己評価と他者評価）

①　形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．
- 北野病院研修中は年 2 回麻酔科部長と専攻医の間で面談を行い、研修状況、今後の希望その他について直接聞き取りを行うとともに、必要なら口頭で指導を行う。
- 北野病院研修中は年度ごとに中央手術部、集中治療部の看護師長、担当臨床工学技師、担当薬剤師からみた専攻医の評価（主にコメディカルからみたコミュニケーション能力、研修態度等）を文書で研修管理委員会に報告させ、次年次以降の専攻医との面談の際の指導の参考とする。

②　総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して２年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- ２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムは基幹施設の北野病院が地域医療支援病院であり、北野病院での研修そのものが、大阪市の地域医療に貢献している。さらに、本プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての天理よろづ相談所病院，大津赤十字病院，京都桂病院、大阪赤十字病院、京都大学医学部附属病院、琉球大学病院、日本赤十字社和歌山医療センター、市立岸和田市民病院、医仁会武田総合病院、公立豊岡病院組合立豊岡病院、神戸市立医療センター中央市民病院、静岡医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター、自治医科大学附属病院、大阪医療センターなど他府県にまたがる幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施

は必要不可欠であるため，専攻医は，地域での研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する．

北野病院研修中の専攻医の勤務時間は平日 08：30〜17：10 である。専攻医に限らず北野病院では常勤医師はフレックスタイム制で勤務している。時間外勤務に対しては時間外手当が支給される。また宿日直勤務を行った場合は、宿日直手当が支給されると共に実働時間に応じた手当が加算され翌日は業務免除としている。病院として定めた労務基準は専攻医にも適応され、時間外勤務の上限が定められている。また、誕生月健診、当直者健診の年 2 回の健康診断受診は義務である。必要な場合にメンタルケアを受ける院内システムは整備されている